山口県の植物さんぽ②

瀬戸内海の海岸（冬）編

「ほっとやまはく」タイム㉛

一年で最も寒さが厳しいこの季節、買い物などで外に出掛けるだけでも大変な毎日なので、ましてや寒風吹きすさぶ冬の海岸を散歩しようという人はなかなかいないかもしれません。しかし、山口県は三方を海に囲まれているので、海岸近くに住んでいる人も多く、しかも同じ海岸でも瀬戸内海側と日本海側という、かなり趣の異なる風景を一つの県内で楽しむことができるという恵まれた地域なのです。ということで、前回（2022年11月24日掲載）秋吉台から始めた「植物さんぽ」は、今回は瀬戸内側の山陽小野田市の海岸です。その中でも、日頃はあまり気にする人が少ない冬の植物に注目して紹介します。

この辺りの海岸は、埋め立てられているところも多いのですが、一部には遠浅の干潟がまだ残っていて、そこには身近ではなかなか見られない独特の形態で、海水にも耐える面白い植物が見られました。（撮影はすべて山陽小野田市で、21年12月）

赤っぽい花茎が特徴のフクド（右下はわずかに残った花）

海水に漬かっても大丈夫！

フクド（キク科）

「フクド」は別名ハマヨモギとも呼ばれ、満潮時には海水に漬かってしまうような河口の泥地などに見られます。二年草で花が咲くと枯れてしまいます。撮影した12月にはほぼ花が枯れていましたが、1株だけ根元にまだわずかに花を付けていました。本来は長く枝分かれした花茎にたくさんの花を付けます。葉は根元にロゼット状に付いていて、満潮時に海水に漬かっても枯れることはありません。

赤く色づいたハママツナ

海岸の砂地が好き！

ハママツナ（ヒユ科）

ハママツナは、同じく海岸の砂地に生えるオカヒジキやマツナと同じ仲間（オカヒジキ属）でよく似ていますが、ハママツナは秋以降になると、主に北海道で見られる「アッケシソウ（厚岸草）」や九州北部だけで見られる「シチメンソウ（七面草）」のように、全体が美しい赤色に変色するので、この季節に見ると区別できます。この仲間は、オカヒジキ属という名前からも分かるように、細長く丸っぽい葉も含めて全体が海藻のヒジキのような姿をしています。花期は9月から10月です。

ハマサジの花（後方に根生葉が見える）

ハマサジ（イソマツ科）

これも海岸の砂地を好む植物で、葉が「匙（さじ）」（スプーン）に似ているのでその名が付きました。花期は9月から11月ですが12月でもまだたくさん咲いていました。フクドと同じように、葉は根元に集まって付いていて（根生葉）、厚くて光沢があり、海水にも耐えることができます。

干潟や川岸などで大集合（大群落）！

アシ（ヨシ・イネ科）の仲間

アシ（葦・蘆）は、アシが「悪（あ）し」に通じるのでこれを嫌って、「ヨシ」という名が後で付いたそうです。このアシの茎で作った日よけなどを葦簀と書いて「よしず」と呼びますね。と言っても、実は標準和名ではヨシなのでアシもヨシも名前として使われています。海岸に限らず、川岸や池などで大群落を作ることが多く、一見するとススキの草原のようにも見えますが、ススキのように株立ちする（根元がまとまって見える）ことはありません。アシ（ヨシ）の仲間にはいくつか種類があり、写真のような遠景では区別が困難です。

アシ（ヨシ）の仲間の群落

今回は、冬の瀬戸内海側の海岸の植物のうち、日頃あまり気にすることがないような植物を紹介しました。

このように、探してみると植物に限らずきっとさまざまな自然や景色を見つけることができます。寒さに負けず、小さな出合いや発見を求めて、ぜひ「さんぽ」してみませんか？

撮影地周辺の海岸（奥の陸地の左が九州、中央から右が下関周辺）

杉江喜寿（学芸専門監兼学芸課長）

▽次回は2月8日です。

山口県立山口博物館
ＴＥＬ083－922－0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで